

## 論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

竹本 彩夏

主論文の題目  
および  
掲載・審査委員

題目 Patients with Gestational Diabetes Mellitus May Be Treated in Both Early and Late Pregnancy, Especially in Patients with Pre-pregnancy Overweight: A Cross-sectional Study in Japan (妊娠糖尿病は、特に妊娠前に過体重のある場合、妊娠中期以降だけでなく初期からも治療介入した方がよい：わが国における横断研究)

掲載誌 Diabetology International 2023; 14: 381-389

主査 清水 直樹

副査 松本 直樹

副査 高江 正道

[論文の要旨・価値] 妊娠糖尿病 (GDM) は妊娠中に最も高頻度に発症する代謝異常であり、その診断と治療は極めて重要である。わが国では、妊娠中期だけでなく初期から糖代謝異常スクリーニングを行なっているが、初期 GDM を診断・治療する意義については議論がある。申請者らは、初期 GDM 診断の意義を明らかにするため、GDM 診断時期により母体背景や新生児転帰に相違があるかを検討した。2012 年 11 月から 2020 年 3 月の期間に GDM と診断され、聖マリアンナ医科大学病院代謝・内分泌内科に入院となった患者 522 例を対象とする後方視的検討を行った。妊娠 24 週未満で GDM 診断された初期 GDM 群、24 週以降診断の中期 GDM 群に分類し、母体背景、75gOGTT データ、妊娠転帰、新生児転帰を比較した。中期 GDM 群の年齢中央値 34.0[31.0, 37.0]歳、BMI21.5[19.3, 23.8]kg/m<sup>2</sup> に対して、初期 GDM 群は 35.0[32.0, 38.8]歳、BMI22.7[20.3, 26.3]kg/m<sup>2</sup> と年齢が高く (P=0.014)、妊娠前 BMI が高値 (P=0.001) であったが、両群の周産期アウトカムに差はなかった。初期 GDM 群のうち、妊娠前過体重 (BMI ≥ 25kg/m<sup>2</sup>) の有無による相違を検討するため層別解析を行なったところ、妊娠中の体重増加は同程度 (7.1[5.9, 10.9]kg vs. 7.3[3.0, 9.0]kg; P=0.071) であったが、妊娠前過体重が有る群では、新生児 LGA; large for gestation の頻度を高く認めた (2.1% vs. 15.4%; P=0.008)。本研究により、妊娠初期でも GDM を診断することは有益であると考えられた。母体の妊娠高血圧・分娩様式、新生児合併症等も含めた検討など、今後の展開が期待できる優れた研究であり、学位に値すると判断した。

[審査概要] 審査は主査、副査および 4 名の陪席 (1 名 WEB 参加) のもと行われた。PC によるプレゼンテーションの後、質疑応答が行われた。審査のなかでは、(1)GDM 発生機序 (2) 諸外国スクリーニングとの相違 (3) 入院中の GDM コントロールの状況 (4) 比較対象をおけない本研究の限界 (5) アウトカム指標としての新生児転帰の各論など、多岐にわたる質問が出され、申請者は概ね的確に回答した。

## 最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語 (英語) 試験等の評価] 大変わかりやすく練られた構成の発表であった。申請者は本研究に関する幅広い知識を有しており、質疑応答も専門領域だけでなく周辺領域についても的確に回答し十分な発表能力があると判断した。発表・質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、誠実で礼儀正しく、学位授与に値する人物であると判断した。英語は申請者が引用文献に用いた文献についてその場で箇所を指定し、訳してもらうことで評価し、十分な語学力を有すると判断した。